

目的 現代の男女大学生の着衣について、演者は先年より衛生学的見地より考察を続けてきたが、今回は総括的な検討を試みる必要から、男女大学生は衣服に対してどのような意識をもって着用しているか、その実態を把握し、今後の衣生活の改善に教育上役立たせる資料を得るために本調査を実施した。若干の成績を得たので報告する。

方法 調査は主として阪神間に居住する一般大学生（18才～24才）の男子100名、女子100名、服飾専門大学生（18才～21才）の男子80名、女子80名、計360名について1983年5月に実施した。調査方法は自記記録式直接調査法によった。調査内容は、着用衣服に対する配慮、衣服の購入、流行、品質表示などについての意識、衣服費などである。

結果 衣服についての関心度は、一般大学生、服飾専門大学生共に着装について常に配慮していると答えた学生は、男子30%、女子70%で、特に外観、色柄についての配慮が上位を占め、身体保護や健康に対する配慮は男女共あまり認められなかった。流行については、男子40%、女子80%が関心をもち、特に女子は70%、男子は一般大学生18.9%、服飾専門大学生35.6%、が流行雑誌等により積極的に流行をとり入れようとしているという結果が出た。衣服購入時の選択基準は、男女共にデザイン、色柄、価格を重視し、衣服の外観効果に強い関心を払っていることが判明した。着心地についての選択は、女子は上半身衣服よりも下半身衣服に重視度が高く、品質表示、縫製については男女共に重視度は低かった。これらの結果から保健衛生上、生活機能上の被服のあり方に対する認識を高めることが必要であることが判明した。